

International Center Newsletter

大阪学院大学 国際センター ニュースレター

All the world's a stage.

この世はすべてひとつの舞台。

William Shakespeare “As You Like It”

1. Message from 国際センター所長: マイク・マツノ 経営学部准教授

**経験 (Experience) + 発見 (Discovery) =
人生を変えるような体験! (A truly Life Changing experience!)**

海外研修、交換留学、大学提携、留学生の受入れなど国際センターに関わる最新情報をOGUのみなさんに知っていただくために、今年度より国際センターのニュースレターを発行する運びとなりました。2009年秋には、長期(1学期あるいは1年)の交換留学生として18名のOGU学生を海外に派遣します。

国際センターでは、海外経験が“priceless”で、人生を変えるような素晴らしい経験になると確信していますので、こうした提携大学への派遣学生の数を年々増やすことを目標にしています。交換留学をした学生は、語学力が格段に向上するだけでなく、外国の文化や人に関する知識を深めて帰国します。またさらに重要なのは、海外に行くことで学生が自分自身を見直す

機会を得、また日本人であることの意味を自覚して帰国するという事です。さらには、学生たちが留学先で身につけるコミュニケーションスキル、積極性、知識、問題解決能力、そして自信などのライフスキルはお金には換えられない素晴らしいものなのです。

言うまでもなく、学生たちが交換留学で得るであろう経験、知識、スキル、国際的な交流は、物事の考え方、キャリア選択、これからの人生そのものに大きな影響を及ぼすでしょう。これを読まれるすべての方々に、より多くの優秀なOGU学生を海外研修／交換留学生として派遣できるように継続して支援していただきますようお願いいたします。それが長期であっても、短期であってもかまいません。留学は大学で学ん

でいる今しかできない、また今すべき経験です。それを学生に勧めたいのであります。

海外や留学に関して少しでも興味のある学生や友人に国際センターに足を運ぶように勧めてください。国際センターの場所は、1号館1階です。お待ちしております。



マツノ国際センター所長&後藤副所長

2. Message from 国際センター副所長: 後藤 登 経営学部教授

私の海外初体験は、皆さん方と同じ、大学生のとき。バックパック(大型リュックサック)ひとつだけを背負い、夏休みの約1ヶ月間を利用して、米国、カナダ、メキシコへ行き当たりばつりの激安「プチ放浪旅」に2年連続出掛けました。1度目は友人とふたり、2度目はひとりで。見るもの、触れるものすべてが「新発見」の連続でした。帰国して、大学のとある先生に旅先での体験談を多少興奮気味に話していると、「それで、君自身はどのように成長しましたか?」と尋ねられました。その質問に、一瞬、戸惑いましたが、以前よりほんの少しだけ、積極的に自立してきた自分、世界には様々な文化や「もの見方」があることに気づき始めている自

分を「新発見」したような気がしました。

その後、進学した東京の大学院では、同級生のなんと8割が外国人。韓国、中国、台湾、シンガポールなどアジアからの留学生がほとんどで、彼らと付き合うなかで、日本にいながらにして、世界の文化や思考の多様性に触れるという貴重な体験をしました。そのうちの何人かとはいまでも友人関係が続いています。ただ、心残りも、自らは20代で長期留学をしておくべきだったこと。異文化体験は、異国だけでなく、日本そして自分自身の「新発見」でもあり、そのエキサイティングな体験は、長い人生の土台作り当たるまさにいま、「大学時代」にしておくべきだと思います。

OGUでは、現在、学生交換協定を結んでいる世界の34大学(2009年5月1日現在)への1学期から1年間の交換留学、春夏の短期海外研修など様々なプログラムを用意しています。そして、世界各地から約30人の留学生がこのキャンパスで日本語や日本文化を学んでおり、皆さんとの交流を楽しみにしています。海外に飛び出すもよし、OGUにいながらにして異文化体験するもよし。大切なことは、「最初の一步」を踏み出すこと。まずは、気軽に1号館1Fの国際センターへ遊びに来てください。文化や考え方の違いを認め、それらの違いを超えて、人生を語り合える将来の友に出会うためにも!

3. 2009-2010 交換留学生

国際センター業務の両翼の一つを担うのが交換留学生の派遣です。現在、海外の提携大学40校の内、学生交換協定を締結している大学が34校あり、今年も続々と新しい大学と協定を結ぶ予定です。最近はアメリカ、ヨーロッパだけでなく、アジアの提携大学の数も増えています。中国語、韓国語を学びたい学生は、選択の幅が広がっています。

昨年度は21名が交換留学生として海外留学をし、現在も9名がアメリカ、韓国、タイの提携大学で勉強しています。

今年度の交換留学生は行き先が様々

で、18名の学生がアメリカ、ドイツ、フランス、オランダ、フィンランド、オーストラリア、韓国、台湾、南アフリカの提携大学へ留学をする予定です。秋以降は、海外にいる学生からの便りを随時ホームページやニュースレターに掲載しますので楽しみにしてください。

また2009-2010の交換留学生に、日本学生支援機構(JASSO)より2名分の奨学金枠をいただきました。今年度は、成績、出席率、日ごろの努力を考慮して、ミシシッピ大学へ留学する三崎大地 (Misaki Daichi) 君とHZ応用科学大学へ留学する藤間浩之

(Toma Hiroyuki) 君を推薦することになりました。このような奨学金もありますので、経済的に難しいがぜひ留学してみたいと考えている学生は、あきらめないで前向きに考えていきましょう。

6月ごろには、交換留学が可能な提携大学のプログラムと応募に必要な語学基準を発表する予定です。それまでに情報が知りたい、交換留学について詳しく知りたいという場合は、いつでも国際センターに来てください。特に新生で留学を考えている学生のみなさん、早めに留学準備をスタートしましょう！

4. 派遣留学生からの便り～ミシシッピ大学 島川京子 (国際学部)

ミシシッピに来てからはや8ヶ月が経ち、こちらの生活にも慣れて、最初の頃感じていた見るものすべてに対する違和感や物珍しさというものが薄れてきているように感じます。ミシシッピに来たばかりの頃は、この大学のキャンパスも、道路も、何もかもが日本よりも大きく見え、また、寮の居心地の悪さや環境に馴染めずにはいました。しかし、今ではここが落ち着く場所だと感じるほどになっています。

特に、ここで一番感じた違いは“食”についてです。アメリカに来る前はこんなに食文化の違いに悩まされるとは思っていませんでした。また、一度体調を崩してから自分自身で食べるものを選び、調節しながら体調管理をしています。

一方で、アメリカに留学して周りの学生から影響を受けたことが多くあります。まず、ミシシッピは勉強するにはとてもよい環境で、多くの学生は学習に対する意識が高く、互いに切磋琢磨している姿を見ると、それに驚いてばかりではなく自分も頑張らなくてはというように感じました。こちらの学生はメリハリがあり、勉強する時は勉強する、遊ぶ時は遊ぶという感じで、平日は集中して図書館で勉強に取り組み、

金・土・日にかけてはパーティーに行くなどスイッチの切り替えがしっかりしているように思います。私は、ここに来る前は物事に集中して取り組むことが苦手で、なかなか継続できなかったのですが、今は毎日図書館に行き勉強をする習慣がついたことで、一度集中モードに入ったら途中で挫折することなく自分の納得のいくまで続けられるようになりました。

また、ミシシッピ大学にはいろんな国から来た学生がいて、アメリカの文化だけでなくお互いの文化などを知るうえでとてもよい国際交流の場です。このミシシッピ大学への留学を通していろんな国の文化や知識をお互いに教えあったりして、見聞を広めることができました。そして、お互いに自分の国の言葉を教え合いながら会話を楽しんでいるうちに、単語レベルではありますが、韓国語やスペイン語も少し話せるようになり、それによってその国から来た学生たちとさらに交流を深めることができたことは、とてもよかったと感じています。

しかし、英語が上手く話せないことで気持ちが落ち込んでしまうこともありました。自分が言いたいことがあるのに言葉がみつからず、もどかしい気持ちになるときはとても悔しい思いをします。その時は、プラス思考



ミシシッピ大学の友人たちと

“このアメリカ留学生活でつけた力を就職活動やその先の将来に活かすことができようかと確信しています。”

でとりあえずやるしかないと思い、図書館で自主的に勉強し、もっと改善するにはどうしたらよいか考えました。そこで、自己嫌悪に陥るのではなく、自分なりの改善策を考えられたことはとても大事なことだと思います。例えば、



イベントにて

スピーキングパートナーを見つけ、週に何回か発音などのスピーキングの練習をみてもらおうようにしました。また、積極的にアメリカの学生と触れ合うためにイベントなどに参加するようにしました。英語で話すことを恐れず、自分自身がシャイにならず積極的になることが成功の鍵だと思いました。

この留学を通して、この留学に来ることができたのは家族や先生をはじめとする自分を支えてくれた人たちのおかげだと感じています。日本とアメリカで離れているからこそ、それを強く感じます。限られた時間の中で多くの経験を通して多くのことを吸収し、どれだけ自分が成長できるかは自

分次第です。自分の代わりをしてくれる人は誰もいないのだと考えると、ここにいる時間は少しも無駄にはできないと思います。

最後に、この留学でいろいろな経験をして、英語だけではない自分にとってこれからの財産になるようなものを得ることができました。残りの期間は今まで以上に力をつけていくことができると考えています。そして、このアメリカ留学生活でつけた力を就職活動やその先の将来に活かすことができるであろうと確信しています。

5. 提携大学紹介～サンカルロス大学(フィリピン共和国)

今回は、数ある大学の中からフィリピン共和国 (Republic of Philippines) のサンカルロス大学(University of San Carlos)を紹介したいと思います。

このサンカルロス大学はスペイン人のイエズス会宣教師により1595年に設立されたフィリピンで最も歴史の古い大学です。第2次世界大戦中、日本軍の占領下で一時間閉鎖となり、終戦直前の1944年にはアメリカの爆弾で瓦礫となった大学は、3年後の1948年に再興され、現在に至っています。

サンカルロス大学には4つのキャンパスがあり、8学部(建築・芸術、人文学・科学、商業、教育、エンジニアリング、法学、看護、薬学)、27学科の授業を開講しています。またキャンパス内の国際化を推進しており、海外の提携大学との学生交換や研究員受入れなども積極的に実施しています。現在では数多くの外国人留学生や研究者が多国籍な雰囲気を作り出しています。

大学はフィリピン、セブ島のセブ市にあります。日本でもセブ島は観光地として知られていますが、近代的な施設のあるリゾート地が点在し、現地でもフィリピン屈指の避暑地として有名です。またフィリピン最古の歴史を誇り、歴史を物語る建物や記念碑が数多く残されています。

英語を学べるのはアメリカ、イギリス、オーストラリアなどの英語圏だけだと思いませんか。アジア全体のアカデミックな場、政治の場の公用語はすでに英語になっています。フィリピンの公用語はフィリピン語と英語です。経済的にアメリカやヨーロッパへの留学は無理だと思っている学生は、フィリピンで英語を勉強してみてもはどうでしょうか？

2008年秋、OGUはサンカルロス大学から初めての交換留学生を迎えました。“ブッチ”ことJose Maria A. Mateoは、現在OGUの国際交流プログラムで一先懸命日本語を勉強中です。サンカルロス大学に興味のある学生、フィリピンのことをもっと知りたいと思っている学生は、国際センターまで！



海から見たセブ市



フィリピン



セブ島



6. 受入れ留学生紹介～Jose Maria A. Mateo (ブッチ)

2008年9月に提携大学から30名の留学生を受入れました。そして現在も24名の学生がOGU国際交流プログラムで日本語の勉強に励んでいます。今回は、その中からサンカルロス大学(フィリピン)からの留学生ブッチに、日本の印象、生活、そして彼の大学についてインタビューしました。

まずブッチが日本に来て驚いたことは、日本が想像以上に清潔だったこと、食事の時にいろいろなルールがあって、何をどうすれば良いのかわからなかったことだそうです。今でも、自分は正しいことをしているのかな、相手の気分を損ねていないか



ブッチと留学生、OGU学生

など気遣うことも多いと言います。そしてさらに驚いたのは、電車に乗っていても、男性がお年寄りや女性に席を譲らないこと。また女性が乗っている自転車の後ろに男性が乗っている姿は、驚きを越えてショッキングだったそうです。ただブッチは小さい頃から母親に、お年寄りや女性には優しくするように、手を貸すように育てられそうで、フィリピンの人が全員ブッチのようだと言う訳ではないようです。確かに、ブッチは、国際センターの女性スタッフが重い物を持っている時や何かを片付けている時などは、必ず声を掛けてくれる優しい学生です。

ブッチは、OGUに来る前に、大学で日本語を1学期間勉強し、その後は政府が提供している無料の日本語レッスンを2ヶ月間受講したそうです。しかし日本に来たときは、簡単な日本語しか分からなかったと言います。今では努力の甲斐あって、簡単な会話ならば問題ありません。フィリピンでは、日本語ができることと仕事に役立つため、勉強したいと思っている人は多いそうです。

ブッチの母校、サンカルロス大学は、積極的にキャンパス内の国際化を進めています。ブッチの知る限り日本人学生はいないそうです。サンカルロス大学では、外国語の授業以外は、授業はすべて英語で開講されているため、いろいろな国からの留学生を受入れています。大学院レベルにはヨーロッパからの学生や研究者も多数いるそうです。ブッチがサンカルロス大学を留学先に勧める理由を聞いてみると、英語を勉強できるのはもちろんですが、セブ島は、ビーチもあり、山もあり、ショッピングも楽しめ、また物価が安い、欧米諸国より安く滞在できるのが魅力だと言うことです。

マーケティング専攻のブッチは、大学卒業後は貿易会社で働き、フィリピンの製品を海外へ輸出したいと考えています。そして将来自分の会社を立ち上げるのが彼の夢だと語ってくれました。いつの日か、彼の夢が実現し、フィリピンと日本の友好や貿易に貢献してくれることを期待します。

7. その他の国際センターニュース

1) 海外からの短期研修生受入れ

5月29日～6月29日

アメリカ・ミシシッピ大学

日本語を学習中の8名(女性3名、男性5名)の学生が日本語研修に参加します。日本滞在中は、ホストファミリー宅に滞在し、午前中は日本語授業を受講し、午後はI-Chat LoungeでのOGU学生との交流や学外での文化体験などを予定しています。

2) ホストファミリー説明会

6月6日(土)13:30～16:00 p.m.

毎年多くの交換留学生をキャンパスに迎えています。希望する学生にはホームステイの機会を提供しています。年々留学生の数が増加していることを考えると、今後も協力して下さるホストファミリーが必要です。

条件は、

- 1) OGUまでの通学時間1時間以内
- 2) 個室を提供
- 3) 1日2食を提供(休日も含む)

以上です。

ご協力をよろしくお願いいたします。

3) 国際センタースタッフ

4月1日付けで河野理香さんが入試事務室に、5月1日付けで山道健一郎さんが入試事務室、中村裕美さんが教務課に異動になりました。3名の方々これまで本当にありがとうございました。今後とも国際センターへのご協力をよろしくお願いいたします。

その3名に代わり、4月1日付けで新しいスタッフとしてティティス・ニティスワリさんと熊井知美さんを、5月1日付けで教務課から渋谷将史さんを迎え、この春、国際センターは



国際センタースタッフ

新たなスタートを切ることになりました。今後とも、派遣するOGU学生、受入れる留学生の増加を目指すと共に、より多くのOGU学生が海外経験をし、また一人でも多くの外国人留学生在OGUで学び、今後の人生にその体験が大きく活かされていくようにサポートしていきたいと考えています。

大阪学院大学 国際センター
〒564-8511
吹田市岸部南2丁目36-1
Tel: 06-6381-8434
Fax: 06-6381-8499
Email: inoffice@ogu.ac.jp